



図 15.43 顔面毛包性紅斑黒皮症（北村）〔erythromelanosis follicularis faciei (Kitamura)〕  
10 歳代女性。耳前部から頬にかけて毛孔一致性の角化性丘疹による紅斑性局面を認める。

## 5. 棘状苔癬 きょく lichen spinulosus

棘状の突起をもった毛孔性丘疹が集簇し、直径 2～5 cm の局面を形成する。若年者の頸部、殿部、腹部などに生じる。病理組織学的には毛孔性角化症と同一。原因不明であるが AIDS や Crohn 病などに続発した報告がある。

## 6. 黒色表皮腫 acanthosis nigricans ; AN ★

### Essence

- 頸部や腋窩に、ザラザラした表面の黒褐色の局面をきたす疾患。
- 内臓悪性腫瘍（とくに胃癌）に合併する悪性型、肥満関連型、内分泌疾患に伴う症候型の 3 型に大別。
- 病理所見では、乳頭腫、過角化、基底層の色素沈着を特徴とし、基本的に表皮肥厚はない。

### 症状

項頸部、腋窩、臍窩、鼠径部などに、黒褐色のザラザラした乳頭状隆起をきたし、ビロード状あるいはおろし金状の外観を呈する（図 15.44）。内臓悪性腫瘍（とくに胃癌）を合併する悪性型（malignant AN）、肥満者にみられる肥満関連型（obesity-associated AN、以前は仮性型と呼ばれた）、高インスリン血症や SLE などを背景とする症候型（syndromic AN、良性型



図 15.44 黒色表皮腫 (acanthosis nigricans)

と呼ばれた概念を含む)などに分類される。肥満関連型が最も多い。悪性型では口囲に出現しやすい。

### 病理所見

乳頭腫、過角化、基底層の色素沈着を3主徴とする(図15.45)。acanthosis nigricansという病名ではあるが、表皮肥厚(acanthosis)はみられないことが多い。

### 診断・治療

臨床症状から診断する。悪性型では、内臓悪性腫瘍に先行ないし同時発生する 경우가70%以上を占めるため、癌の早期発見にもつながる。基礎疾患の治療や肥満の改善により皮疹も軽快する。

## 7. 融合性細網状乳頭腫症 confluent and reticulated papillomatosis

体幹(とくに乳房間, 上腹部)に灰褐色の色素斑~角化性丘疹が生じて, それらが融合して網目状の局面を形成する(図15.46)。思春期から青年期に多く発生し, 慢性に経過する。自覚症状はない。原因不明であるが *Malassezia* 属感染の関連が示唆されている。抗真菌薬外用, ミノサイクリン内服などが行われる。

## 8. 腫瘍随伴性先端角化症 paraneoplastic acrokeratosis

同義語: <sup>バゼー</sup>Bazex 症候群 (Bazex syndrome)

四肢末端, <sup>びせん</sup>鼻尖, 耳介などに対称性に乾癬に類似した紅色局面が出現し(図15.47), その数か月後に内臓悪性腫瘍が顕在化するものをいう。40歳以上の男性に多く, 食道, 肺, 咽頭, 喉頭の扁平上皮癌を背景とすることが多い。角化病変は悪性腫瘍の病勢に並行する。

## 9. 鱗状毛包性角化症(土肥) keratosis follicularis squamosa (Dohi)

体幹, とくに腰部, 腹部, 殿部に毛孔に一致した黒点が左右対称性に生じ, それを中心に3mm~1cm大の灰白色, 円形葉状の鱗屑が付着する(図15.48, 15.49)。自覚症状はない。青年期に好発する。

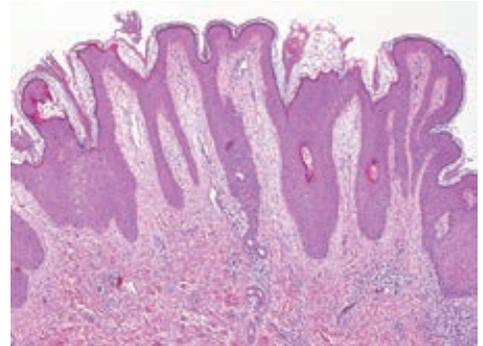


図15.45 黒色表皮腫の病理組織像

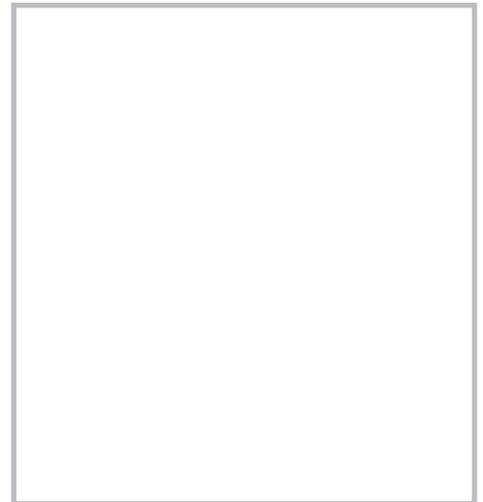


図15.46 融合性細網状乳頭腫症 (confluent and reticulated papillomatosis)

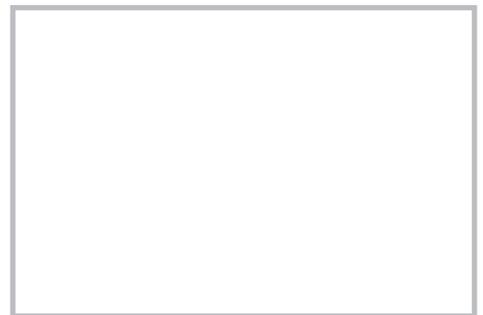


図15.47 腫瘍随伴性先端角化症 (paraneoplastic acrokeratosis)